

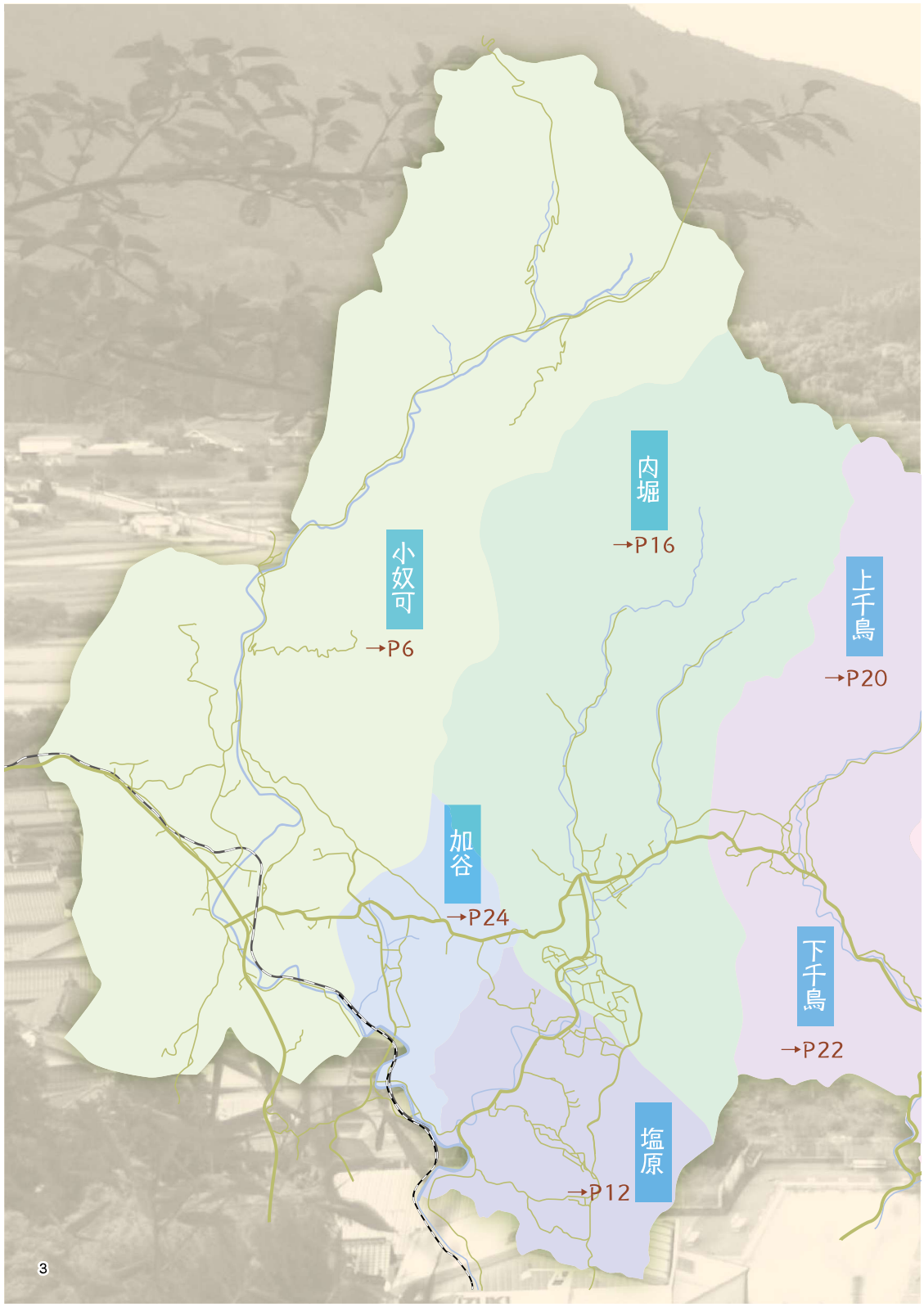
小奴可の里自治振興区

庄原市北東部に位置し、東を岡山県、北を鳥取県と接する。地域内には、北に道後山や猫山といった1,000m級の山を配し、成羽川の支流である小奴可川、内堀川、粟田川の3本の川が南に流れている。川の水量は豊富で、ヤマメやアユ、オオサンショウウオなどが生息する清流であり、今も子供達が川で遊ぶことができる。

江戸時代から明治時代にかけて「かなな流し」による砂鉄の採取及びたたら製鉄で賑わった地域で、史跡や地形にその痕跡をみることができる。川の両側に広がる耕地は「かなな流し」によって形成された。

また古くから稲作と和牛飼育を中心とした農業が営まれている。戦後、冷涼な気候を利用したりんご栽培がすすめられ、観光りんご園も点在し、「小奴可りんご」の名で知られている。今はキクウの栽培も盛ん。









小奴可の要害ざくら

さくらの四季

